

# 日本語の接尾辞「ぶり/っぶり」の使い分けについての分析\*

多田 朱里

tadaakari.3723@gmail.com

キーワード：ぶり っぶり 接尾辞 連濁 促音挿入

## 要旨

現代日本語の「ぶり」は、名詞や動詞の連用形につき、その物事の様子・状態の意を添える接尾辞であり、「っぶり」という異形態をもつ。「ぶり/っぶり」の使い分けについて、これまで語調や意味の違いから説明がなされてきた。しかし、それだけでは使い分けを説明できない用例が見られる。そこで本論文は、接尾辞「ぶり/っぶり」の選択に影響を及ぼす要因を明らかにすることを目的とする。調査方法として、Twitterをコーパスとして「ぶり/っぶり」の前部要素の品詞、語種、音韻、モーラ、頻度ごとの使い分けを観察し、この5つの条件についてロジスティック回帰分析を行った。本論文の主張は、以下の二点である。第一に、前部要素の品詞・音韻・モーラ数・頻度の4つの要因が「ぶり/っぶり」の選択に影響する。第二に、「ぶり」と「っぶり」それぞれに、いつも特有の意味があるというわけではない。これまで分析されてきた意味の違いは促音の強調効果によるものである。

## 1. はじめに

現代日本語には、連濁形と促音挿入形の両方をもつ複合語がある。同じ形態素の組み合わせで連濁形と促音挿入形が併存している語例として、肥爪 (2018) は「みぎがわ/みぎっかわ」「うわづら/うわっつら」などを挙げ、連濁形も促音挿入形も、複合語としての意味は原則として同じであり、形態素の結合度にも差はないとした。そして、複合語内部境界以外にも、付属語境界や接辞境界などさまざまなレベルで濁音化と促音挿入が平行的に見られることを指摘している。

接尾辞「ぶり」は名詞や動詞の連用形について、その物事の様子、状態の意を添える接尾辞だ。「ぶり」には「っぶり」という異形態も存在する。この「ぶり/っぶり」は、連濁形と促音挿入形のペアであるように見える。本論文では、接尾辞「ぶり/っぶり」の使い分けの要因が何かについて論じる。接尾辞「ぶり/っぶり」がどんな要因によって選択されているかを明らかに

---

\*本論文は筆者の卒業論文 (東京大学文学部; 2023 年 1 月 5 日提出) に加筆修正したものである。本稿に関する内容について、指導教員の長屋尚典先生、研究室の先輩である諸隈夕子さん、鈴木唯さん、林真衣さん、吉田樹生さんから貴重な意見をいただいた。また、投稿にあたって窪菌晴夫先生、肥爪周二先生から重要なお指摘をいただいた。本稿の内容は 2023 年 1 月 28 日に開催された「言語学フェス 2023」においても発表した。その際、松浦年男先生、江口正先生、小栗哲哉先生に大変有益なコメントをいただいた。この場を借りて感謝を申し上げる。なお、本論文の文章に関する責任はいうまでもなくすべて筆者にある。

することで、日本語において併存する連濁形と促音挿入形のペアについても、「ぶり/っぶり」の選択と同様に説明できる可能性を提示する。

接尾辞「ぶり」について、日本国語大辞典第二版では、「ぶり」ではなく「っぶり」が選択される場面について、以下のように記述されている。以下、引用中の下線部はすべて筆者によるものである。

ぶり【振】

(3) 名詞や動詞の連用形に付いて、その物事の様子、状態の意を添える。「亭主ぶり」「男ぶり」「女ぶり」「生活ぶり」「使いぶり」「話しぶり」など。なお、語調を強めるとき「っぶり」の形となる。「男っぶり」「使いっぶり」など。

(『日本国語大辞典』第二版 2003)

このように、「ぶり」と「っぶり」は、語調の違いによって使い分けられるとされている。しかし、これに対して杉村 (2010) は、動詞につく「ぶり」と「っぶり」を観察したうえで、「っぶり」は「ぶり」の単なる強調表現ではないと指摘した。そして、両者の意味の違いについて、「『一ぶり』は当該事態の中身について内面的な質の様子を表す表現であるのに対し、『一っぶり』は当該事態の外面的な様相の現れが『豪快だ』、『潔い』、『見事だ』ということを表す表現である」(杉村, 2010, 137) と意味分析した。杉村は「食べっぶり」と「食べぶり」を挙げ、以下のように両者の意味の違いを説明している。

(33) 甘いマスクのイメージとは一転、自身初となる全国 CM で岩隈投手が見せる男らしい“食べっぶり”は、話題となりそうだ

(34) 私本当におそばが好きで最低でも年間 100 食は食べるんですがあんなにきれいな食べぶりをされる方は初めてでした。

(中略)

例 (33) の「食べっぶり」は、動作主である岩隈投手の食べる姿が男らしく豪快であるという外面的な様相を表しているのに対し、例 (34) の「食べぶり」は、動作主の食事作法がきれいであるという動作の中身の様子を表している。

(杉村 2010 132)

杉村は、「ぶり/っぶり」のどちらが選択されるかは、「ぶり/っぶり」それぞれの意味の違いにあるとした。しかし、「ぶり/っぶり」の選択が、意味的な要因のみによって決定づけられているとは考えづらい用例が観察できる。以下は Twitter 上での観察である。

(1) @ngsmai は～わかりますよー😋❤❤❤もうなんなんですかね、あの美しさ👩女の私も

嫉妬する笑笑なのにちよくちよく見せる猫っぶりドジっぶり、、作られてない天然ぶり、、罪です💧

(@rrrkpn6, 2022-02-09,

<https://twitter.com/rrrkpn6/status/1495017019678203908>, 2023-01-03 最終閲覧)

- (2) しっかりしたレインポンチョ買ったといてよかった。持ってったやつじゃ全然歯が立たない降りっぶりだった。そして膝下レインブーツの活躍ぶり👉 kiu の商品がザクザク増えていくので、ゴリホの建設に貢献してると思います。

(@chagu7, 2022-07-09

<https://twitter.com/chagu7/status/1545680593739911168>, 2023-01-03 最終閲覧)

(1)も(2)も、同ツイート内において「ぶり」「っぶり」の両方が使われている。しかし、「ぶり」がつく表現と「っぶり」がつく表現で、杉村 (2010) で記述されたような意味の違いがあるとは考えづらい。そのため、(1)と(2)における「ぶり/っぶり」の選択は、「ぶり/っぶり」の意味の違いによって決定されているわけではないはずだ。そして、「ぶり/っぶり」の選択には、意味以外の要因が影響を及ぼしているのではないかと考えられる。

「ぶり/っぶり」の選択に影響を与えていると考えられる要因には次のようなものが考えられる。統語的な観点から、どのような語や句が「ぶり/っぶり」の前に接続するかということが挙げられる(以下、「ぶり/っぶり」が接続するものを、「ぶり/っぶり」の「前部要素」とする)。杉村 (2010) は、「ぶり/っぶり」が接続する動詞について観察した。そのなかで、サ変動詞の場合はサ変動詞の連用形に「ぶり/っぶり」がつくのではなく、サ変動詞が接続する名詞に「ぶり/っぶり」がつくことを指摘した(「成長しぶり」ではなく「成長ぶり」)。そして、サ変動詞が接続できる名詞には「っぶり」よりも「ぶり」が付きやすいということを挙げている。そのため、前部要素の品詞が何かということが、使い分けに影響する可能性がある。音韻的な観点から、「ぶり/っぶり」は有声音と無声音のペアであることから、連濁の音韻規則との関連性も考えられる。連濁の有無に影響を及ぼす、前部要素の音韻、語種、モーラ数が「ぶり/っぶり」の選択に関係するかもしれない。さらに、前部要素の頻度も考えられる。頻度が高いと、合成語ではなく「〇〇ぶり」「〇〇っぶり」というひとかたまりの単純語の一部として「ぶり/っぶり」の一方を選択している可能性がある。

そこで、本論文では、「ぶり/っぶり」の前部要素の品詞、語種、音韻、モーラ数、頻度について調査し、接尾辞「ぶり/っぶり」の使い分けの要因について論じる。方法は、Twitterをコーパスとしたデータの観察とロジスティック回帰分析である。コーパス調査は、「ぶり/っぶり」が使用される言語データを集め、「ぶり/っぶり」の分布の偏りを観察し、選択の要因を考えることを目的として行う。Twitter は140字以内で投稿を行うことができるソーシャルネットワークサービスである。API を公開しており、検索によって取得したい文字列を大量にリアルタイムで取得できる。そのため、実際の「ぶり/っぶり」の言語使用を観察し、その使用実態につい

て分析する本研究において、Twitter はコーパスとして有用である。

ロジスティック回帰分析は、品詞、語種、音韻、モーラ数、頻度のどの要素が「ぶり/っぶり」の使い分けに影響しているかを明らかにするために行う。ロジスティック回帰分析は、2値の質的変数を目的変数とし、複数を説明変数として、結果を予測する分析手法である。「ぶり/っぶり」選択に影響を及ぼす要因はなにか、という本論文の問いを調べるために、ロジスティック回帰分析は適切な分析手法である。

このような調査の結果、本論文は「ぶり/っぶり」の選択について以下の二点を主張する。第一に、前部要素の品詞・音韻・モーラ数・頻度の4つの要因が「ぶり/っぶり」の選択に影響する。第二に、「ぶり」と「っぶり」それぞれに、いつも特有の意味があるというわけではない。これまで分析されてきた意味の違いは促音の強調効果によるものである。

本論文の構成は、以下の通りである。第2節において、Twitterを用いたコーパス調査の方法と統計分析の手法を提示する。第3節において、コーパス調査の結果と統計分析の結果を報告する。第4節において、「ぶり/っぶり」の使い分けに影響を与えている要因、接尾辞「ぶり/っぶり」の違いについて議論する。最後に第5節で本論文をまとめる。

## 2. 方法

本節では、具体的な調査の手順を述べる。2.1節では、調査の対象について整理する。2.2節では、コーパス調査の手法と分類方法を整理する。まず2.2.1節で、Twitterによる調査手法を示す。次に2.2.2節で、前部要素の各要因の具体的な分類方法を述べる。2.3節では、統計分析の方法を示す。

### 2.1. 調査の対象

本節では、本研究がどのような現象を調査対象としているのかを明示する。まず2.2.1節で調査の対象とする接辞「ぶり」について整理し、次に2.2.2節で分析の対象とする前部要素の要因とその理由について整理する。

#### 2.1.1. 調査の対象とする「ぶり」

接尾辞「ぶり」には様々な意味があるが、本研究では、名詞や動詞の連用形に付いて、その物事の様子、状態の意を添える「ぶり」のみを調査対象とする。接尾辞「ぶり」について、『日本国語大辞典』第二版(2000)では、以下の(3)から(7)までの、5つの説明が掲載されている。

- (3) 名詞またはこれに準ずる語に付いて、曲調・調子の意を表わす。「声(こわ)ぶり」「万葉ぶり」など。
- (4) 古代歌謡、とくに宮廷の雅楽寮に伝えられた歌曲の曲名を表わす。「天田ぶり」「高橋ぶり」など。
- (5) 名詞や動詞の連用形に付いて、その物事の様子、状態の意を添える。「生活ぶり」「使い

ぶり」など。

(6) 数量を表わす語に付いて、それに相当する意を添える。「大ぶり」「二人ぶり」など。

(7) 時間を表わす語に付いて、それだけの時間が経過した意を表わす。「一年ぶり」など。

本論文の調査対象は、(5)のみである。(3)(4)(6)(7)は、その物事の様子、状態の意を添えるものではなく、「っぶり」との置き換えも不可能であるため、調査の対象としない。

さらに、そのように振舞うという動詞「一ぶる」の連用形（「被害者ぶり方」「偉ぶりやがる」など）も、「っぶり」との置き換えが不可能であるため、同様に調査の対象としない。

### 2.1.2. 調査の対象とする要因

「ぶり/っぶり」の選択への要因を調査するのは、前部要素の①品詞、②語種、③音韻、④モーラ数、⑤頻度の5点である。これらを調査する動機は以下の通りである。なお、②語種、③音韻、④モーラ数について、複合語の連濁規則を手がかりにしているのは、「ぶり」は連濁形、ではないかという前提に基づいているためである。

#### ① 品詞

杉村 (2010) によって、前部要素がサ変動詞接続可能の名詞の場合には、「ぶり」が「っぶり」よりも選ばれやすい、ということが報告されている（「成長ぶり」「生活ぶり」など）。杉村 (2010) は、前部要素が動詞である場合にのみ調査を行なっているが、その他の品詞も、「ぶり/っぶり」の選択に関わっている可能性がある。前部要素の品詞による「ぶり/っぶり」の分布を調査することで、品詞が与える「ぶり/っぶり」選択への影響を明らかにしたい。

#### ② 語種

「ぶり/っぶり」は、促音を無視すれば、有声音と無声音のセットである。これと関連して考えられる日本語の音韻規則として、複合語を作る際の連濁が挙げられる。連濁は、複合語形成の際に、後ろの形の語頭が濁音化することである。連濁の音韻規則の1つとして、「和語+和語」は連濁しやすい（窪菌 1999）というものがある。もし使い分けが、連濁の音韻規則に従うならば、前部要素が和語の場合は、連濁の結果として濁音であるほうの「ぶり」が選択されやすい、と考えられる。

#### ③ 音韻

連濁の音韻規則として、同じ語の中で濁音の後ろは濁音になりにくい、撥音は連濁を起しやすくする、というものがある（窪菌 1999）。もし使い分けが、連濁の音韻規則に従うならば、前部要素が濁音で終わるものには「ぶり」が選択されずに「っぶり」が選択され、前部要素が撥音で終わるものには「ぶり」が選択されるのではないかと考えられる。

#### ④ モーラ数

連濁の有無には、前部要素のモーラ数も関係する場合がある (Ohno 2000)。本の場合、前部要素が1モーラ・2モーラの場合は、連濁せず (絵本、見本、赤本、謄本)、前部要素が3モーラ・4モーラの場合は、連濁する (文庫本、漫画本、単行本)。「ぶり/っぶり」についても、前部要素のモーラ数に応じて、連濁の有無が決まり、「ぶり/っぶり」の選択に影響するのではないかと考えられる。

#### ⑤ 頻度

使用頻度が高い表現は、丸ごとその言語要素として脳内に保存され、直接的に処理される (Bybee 1985)。頻度が高いと、合成語ではなく「〇〇ぶり」「〇〇っぶり」というひとかたまりの単純語の一部として「ぶり/っぶり」の一方を選択している可能性がある。

## 2.2. 用例の収集と分類の方法

### 2.2.1. Twitter コーパス調査

調査には、Python の tweepy パッケージを用い、TwitterAPI から「ぶり」と「っぶり」を含むツイートを収集した。収集日時は 2022-09-20 と 2022-09-21 の2日間である。「ぶり」と「っぶり」を検索ワードとし、それぞれ収集した。以下の通り、ツイート内に含まれるリンク、リツイートによる重複、bot を利用した自動ツイート、調査と無関係な表現は、マイナス検索で除外している。

```
search_word = 'ぶり -filter:links -RT -source:twittbot.net -年ぶり -月ぶり -日ぶり'  
search_word = 'っぶり -filter:links -RT -source:twittbot.net -たっぶり'
```

得られたツイートのうち、調査対象以外の「ぶり」「っぶり」を含むものは手作業で取り除いた。調査対象として残ったのは 3,964 例 (ぶり 1,965 例、っぶり 1,999 例) である。

### 2.2.2. 前部要素の分類

「ぶり/っぶり」の前部要素については、筆者の内省に基づいて取り出した。そして、前部要素を①品詞、②語種、③音韻、④モーラ数、⑤頻度の五つの基準で分類した。分類の基準と内訳は以下の表1の通りである。

表 1 分類の基準

分類の基準	内訳
① 品詞	動詞、名詞、名詞-サ変可能、形容詞、形容動詞、助動詞、副詞、感動詞
② 語種	和語、漢語、外来語、混種語、固有名詞
③ 音韻	撥音で終わる、濁音で終わる、その他
④ モーラ	モーラ数
⑤ 頻度	頻度

国立国語研究所の言語資源開発センターが『現代日本語書き言葉均衡コーパス』(BCCWJ)の語彙表(頻度リスト)を公開している。公開されている「短単位語彙表データ」と「長単位語彙表データ」は、BCCWJにおける全ての語の辞書見出し形(lemma)、品詞(part of speech)、語種(wType)、読み(reading)、頻度(frequency)などがまとめられているTSVファイルである。この「短単位語彙表データ」と「長単位語彙表データ」を参照し、以下の手順でそれぞれ分類した。

#### ① 品詞

「長単位語彙表データ」を参照し、各前部要素について品詞(part of speech)を、動詞・名詞・名詞-サ変可能・形容詞・形容動詞・助動詞・副詞・感動詞に分類した。形容動詞はBCCWJでは形状詞として分類されているが、分類の際に形容動詞に名称を変更した。前部要素が「長単位語彙表データ」に含まれていない長い複合語や句であった場合は、前部要素の一番後ろの語の品詞とした。日本語で、複合語や句の主要部は後置されるため、一番後ろの語の品詞をその複合語や句の品詞と置き換えても分析上問題がない。例えば、(8)の前部要素である複合語「SNS 向上月間」の品詞は、いちばん後ろの語の「月間」の品詞である名詞とした。(9)の前部要素である「手のひらクルクル」の品詞は、いちばん後ろの語の「クルクル」の品詞である副詞とした。

#### (8) 最近月野さんの SNS 向上月間っぶり がすごい

(@pirawwwwww, 2022-09-20)

<https://twitter.com/pirawwwwww/status/1572229785832812547>, 2023-01-03 最終閲覧)

#### (9) マジでコントかと思っただけの 手のひらクルクルっぶり だったなおじさん

(@mirin\_soraneko, 2022-09-21)

[https://twitter.com/mirin\\_soraneko/status/1572433673500389376](https://twitter.com/mirin_soraneko/status/1572433673500389376), 2023-01-03 最終閲覧)

また、「成長-ぶり」などのサ変動詞に接続する名詞は、前部要素「成長」について、「名詞-サ変可能」とし、それ以外の名詞は「名詞」とした。「ぶり」が選択されやすいと分析されたサ変



接続可能名詞（「生活(-する)」「成長(-する)」）と、サ変動詞に接続しないその他の名詞との違いを調べるために、両者は分けて分類する。なお、名詞がサ変動詞に接続するかは「長単位語彙表」では品詞として記載がなかったため、「短単位語彙表」を参照した。「短単位語彙表」の品詞 (part of speech) が「名詞-普通名詞-サ変可能」のものを「名詞-サ変可能」に分類した。

## ② 語種

「長単位語彙表データ」を参照し、各前部要素について語種 (wType) を、和語・漢語・外来語・混種語・固有名詞に分類した。「長単位語彙表データ」に含まれない前部要素については、筆者の内省により行った。

## ③ 音韻

前部要素の最終モーラについて、濁音であるか、撥音であるか、それ以外であるかの3つに分類した。

## ④ モーラ数

前部要素のモーラの数によって分類した。

## ⑤ 頻度について

「長単位語彙表データ」から、前部要素の辞書見出し形が一致するものの頻度 (frequency) を取り出した。「長単位語彙表データ」に含まれない前部要素については、頻度を0とした。なお、「愛され-ぶり」の前部要素「愛され」は、「愛する+れる」の2語に分解できるため、「長単位語彙表データ」には含まれない。このような場合は、『現代日本語書き言葉均衡コーパス』で「愛する+れる」を検索して件数を調べ、頻度とした。前部要素「愛され」の場合、以下のとおり検索した。

キー: 語彙素="愛する"

AND 後方共起: 語彙素="れる" ON 1 WORDS FROM キー

## 2.3. 統計分析

R の glm 関数を用いた一般化線形モデルによるロジスティック回帰分析を行った。「っぶり (1) or ぶり (0)」を目的変数(ppuri)とし、①品詞(pos, 名義尺度)、②語種 (wtype, 名義尺度)、③音韻 (phonology, 名義尺度)、④モーラ数 (mora, 間隔尺度)、⑤頻度 (frequency, 間隔尺度) を説明変数とした(式1)。<sup>④</sup>モーラ数と<sup>⑤</sup>頻度については、正規分布に近づけるため対数変換を行った。有意水準は5%とした。目的変数を「っぶり」を1「ぶり」を0をとってモデルを作成したのは、異形態「っぶり」が出てきやすい要因がなにかを予測するためである。



```
glm(ppuri~pos +wtype+phonology
+mora+frequency, data=df, family=binomial)
```

式1:一般化線形モデル

### 3. 結果

本節では、調査の結果を報告する。3.1 節では、コーパス調査による「ぶり/っぶり」の前部要素の観察結果を報告する。3.2 節では、統計分析の結果を報告する。

#### 3.1. 観察結果

以下では、①品詞、②語種、③音韻、④モーラ数、⑤頻度という5つの前部要素の条件ごとの「ぶり/っぶり」の分布を報告する。

##### ①品詞

表2は、前部要素の品詞ごとの「ぶり/っぶり」のトークン数を示したものである。以下、表の割合は、品詞ごとに「ぶり」と「っぶり」の合計を100.0%とした場合の、「ぶり/っぶり」それぞれの割合を示している。

表2 品詞と「ぶり/っぶり」の分布

品詞	ぶり	っぶり	合計
動詞	166 (19.6%)	679 (80.4%)	845 (100.0%)
名詞	899 (49.7%)	909 (50.3%)	1,808 (100.0%)
名詞-サ変可能	738 (75.9%)	234 (24.1%)	972 (100.0%)
形容動詞	119 (53.8%)	102 (46.2%)	221 (100.0%)
副詞	36 (43.4%)	47 (56.6%)	83 (100.0%)
助動詞	6 (18.8%)	26 (81.3%)	32 (100.0%)
形容詞	1 (50.0%)	1 (50.0%)	2 (100.0%)
感動詞	0 (0.0%)	1(100.0%)	1 (100.0%)
合計	1,965 (49.6%)	1,999 (50.4%)	3,964 (100.0%)

図1は、品詞ごとの「ぶり」と「っぶり」の件数を棒グラフにしたものである。

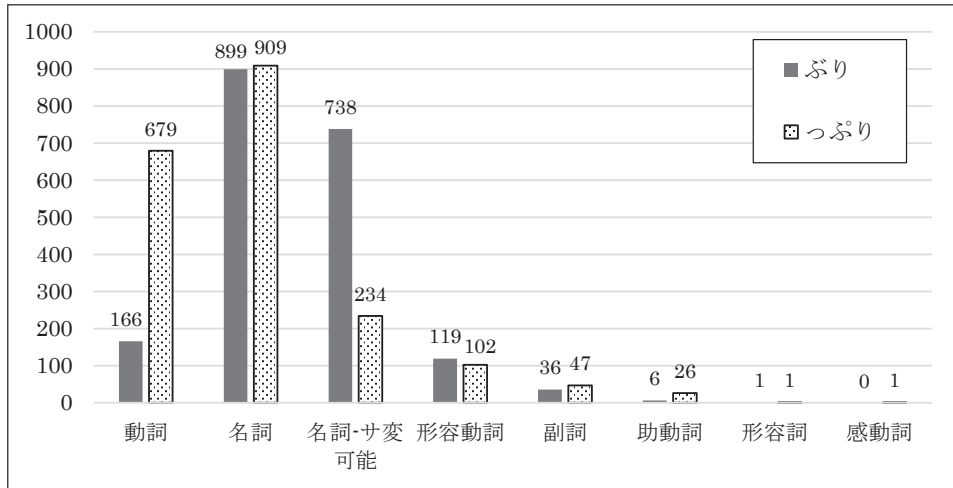


図 1 品詞と「ぶり/っぶり」の分布

「ぶり/っぶり」の前部要素には、動詞、名詞、名詞-サ変可能、形容動詞、副詞、助動詞、形容詞、感動詞の品詞が取られることがわかった。「ぶり/っぶり」の前部要素の品詞は多い順に、名詞(1,808件)、名詞-サ変可能(972件)、動詞(845件)、形容動詞(221件)、副詞(83件)、助動詞(32件)、形容詞(2件)、感動詞(1件)である。件数が少ない形容詞(2件)、感動詞(1件)を除いて、「ぶり/っぶり」の分布に偏りが見られるのは「動詞」「名詞-サ変可能」「助動詞」である。動詞は、「っぶり」が選択されるものが多い(80.4%)。サ変接続可能の名詞は「ぶり」が選択されるものが多い(75.9%)。助動詞は、動詞と同様「っぶり」が選択されるものが多い(81.3%)。

「ぶり/っぶり」は、動詞の連用形と名詞に接続する接辞であると記述されてきた。しかし、動詞と名詞に加えて、形容動詞、副詞、助動詞、形容詞、感動詞も「ぶり/っぶり」の前部要素として使用されていることが観察できる。動詞と名詞以外の、形容動詞、副詞、助動詞、形容詞、感動詞を前部要素にもつ用例を、以下の(10)から(14)に示す。(10)は形容動詞「凶悪」を前部要素にもつ用例、(11)は副詞「がらがら」を前部要素にもつ用例、(12)は助動詞「ない」を前部要素にもつ用例、(13)は形容詞「少ない」を前部要素にもつ用例、(14)は感動詞「よいしょ」を前部要素にもつ用例である。

- (10) 名古屋ナンバーを上回る凶悪っぶりで知られる三河ナンバーの自分ですが、道民の運転にはドン引きですよ。黄信号で止まろうとしたら後続車が加速して突っ込んでくるとか

...

(@KUYO\_kuroneko, 2022-09-21

[https://twitter.com/KUYO\\_kuroneko/status/1572342023570755590](https://twitter.com/KUYO_kuroneko/status/1572342023570755590), 2023-01-03 最終閲覧)

- (11) 古き良き市民球場の秋を感じさせるガラガラっぶりだ#dragons

(@T\_Suika 2022-09-20

[https://twitter.com/T\\_Suika/status/1572182088568426496](https://twitter.com/T_Suika/status/1572182088568426496), 2023-01-03 最終閲覧)

- (12) ダンナの節約しないっぶりに少し悩む☹️例えば、・虫が網戸にやっけてきたり入ってきたりするの嫌だから、窓は開けず、クーラー付けたい・安いレストランではなく高いレストランに行きたい・せっかくの旅行だから良い部屋泊まりたい

(@marimoppu3 2022-09-21

<https://twitter.com/marimoppu3/status/1572384097418510336>, 2023-01-03 最終閲覧)

- (13) 会場のどよめきぶり、拍手少なぶりよ...

(@yuryuryurt 2022-09-22

<https://twitter.com/yuryuryurt/status/1572869929744769024>, 2023-01-03 最終閲覧)

- (14) @tamayamafujiko まさに！真実。90年代中華航空だったので周りは全員外省人。良き思い出しかありません♡オーダーなんて台湾で一体誰が褒め称えているのか？聞いたこともない。そのネタでご飯を食べている日本人のよいしょっぶりが痛い。蔡英文と陳時中は家庭教師と一緒に幼馴染だったと聞いてます

(@masako1413 2022-09-21

<https://twitter.com/masako1413/status/1572394588584955905>, 2023-01-03 最終閲覧)

②語種

表3は、前部要素の語種ごとの「ぶり/っぶり」のトークン数を示したものである。表の割合は、各語種ごとに「ぶり」と「っぶり」の合計を100.0%とした場合の、「ぶり/っぶり」それぞれの割合を示している。

表3 語種と「ぶり/っぶり」の分布

品詞	ぶり	っぶり	合計
外来語	177 (52.7%)	159 (47.4%)	336 (100.0%)
漢語	1,066 (62.2%)	648 (37.8%)	1,714 (100.0%)
固有名詞	16 (45.7%)	19 (54.3%)	35 (100.0%)
混種語	95 (34.4%)	114 (54.5%)	209 (100.0%)
和語	611 (36.6%)	1,059 (63.4%)	1,670 (100.0%)
合計	1,965 (49.6%)	1,999 (50.4%)	3,964 (100.0%)

図2は、語種ごとの「ぶり」と「っぶり」の件数を棒グラフにしたものである。

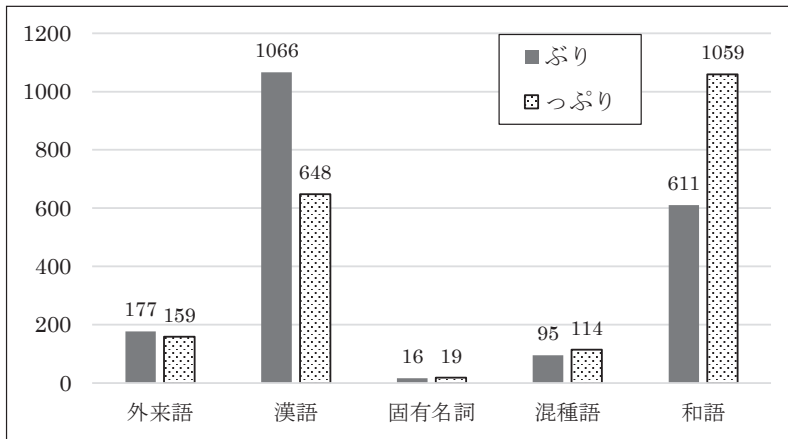


図2 語種と「ぶり/っぶり」の分布

「ぶり/っぶり」の前部要素の語種は、多い順に、漢語 (1,714件)、和語 (1,670件)、外来語 (336件)、混種語 (209件)、固有名詞 (35件)である。「ぶり/っぶり」の分布に偏りが見られるのは「漢語」「和語」である。漢語は「ぶり」が選択されるものが多い (62.2%)。和語は「っぶり」が選択されるものが多い (63.4%)。

## ③音韻

表4は、前部要素の最終モーラの音韻ごとの「ぶり/っぶり」のトークン数を示したものである。表の割合は、各語種ごとに「ぶり」と「っぶり」の合計を100.0%とした場合の、「ぶり/っぶり」それぞれの割合を示している。

表4 音韻と「ぶり/っぶり」の分布

音韻	ぶり	っぶり	合計
濁音	82 (24.5%)	253 (75.5%)	335 (100.0%)
撥音	276 (67.6%)	132 (32.4%)	408 (100.0%)
その他	1,607 (49.9%)	1,614 (50.1%)	3,221 (100.0%)
合計	1,965 (49.6%)	1,999 (50.4%)	3,964 (100.0%)

図3は、音韻ごとの「ぶり」と「っぶり」の件数を棒グラフにしたものである。

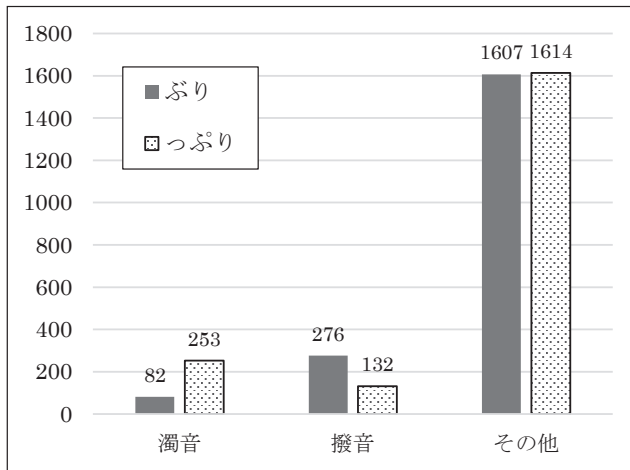


図3 音韻と「ぶり/っぶり」の分布

前部要素が濁音・撥音以外で終わるものは、「ぶり」が49.9%「っぶり」が50.1%で、ほとんど分布の差は見られなかった。一方で、濁音で終わる場合と、撥音で終わる場合の両方に分布の偏りが見られた。濁音で終わるものは、「っぶり」が選択されるものが多い(75.5%)。それに対して、撥音で終わるものは「ぶり」が選択されるものが多い(67.6%)。

## ④モーラ

表5は、前部要素の最終モーラの音韻ごとの「ぶり/っぶり」のトークン数を示したものである。表の割合は、モーラ数ごとに「ぶり」と「っぶり」の合計を100.0%とした場合の、「ぶり/っぶり」それぞれの割合を示している。

表5 モーラと「ぶり/っぶり」の分布

モーラ数	ぶり	っぶり	合計
1	0 ( 0.0%)	2 (100.0%)	2 (100.0%)
2	81 (12.8%)	554 (87.2%)	635 (100.0%)
3	485 (47.7%)	531 (52.3%)	1,016 (100.0%)
4	1,083 (64.2%)	604 (35.8%)	1,687 (100.0%)
5	114 (50.9%)	110 (49.1%)	224 (100.0%)
6	77 (48.4%)	82 (51.6%)	159 (100.0%)
7	66 (52.8%)	59 (47.2%)	125 (100.0%)
8	35 (50.7%)	34 (49.3%)	69 (100.0%)
9	6 (42.9%)	8 (57.1%)	14 (100.0%)
10	8 (57.1%)	6 (42.9%)	14 (100.0%)
11	4 (40.0%)	6 (60.0%)	10 (100.0%)
12	1 (100.0%)	0 ( 0.0%)	1 (100.0%)
13	2 (100.0%)	0 ( 0.0%)	2 (100.0%)
14	0 ( 0.0%)	2 (100.0%)	2 (100.0%)
16	1 (100.0%)	0 ( 0.0%)	1 (100.0%)
17	0 ( 0.0%)	1 (100.0%)	1 (100.0%)
20	1 (100.0%)	0 ( 0.0%)	1 (100.0%)
26	1 (100.0%)	0 (100.0%)	1 (100.0%)
合計	1,965 (49.6%)	1,999 (50.4%)	3,964 (100.0%)

図4は、モーラ数ごとの「ぶり」と「っぶり」の件数を棒グラフにしたものである。

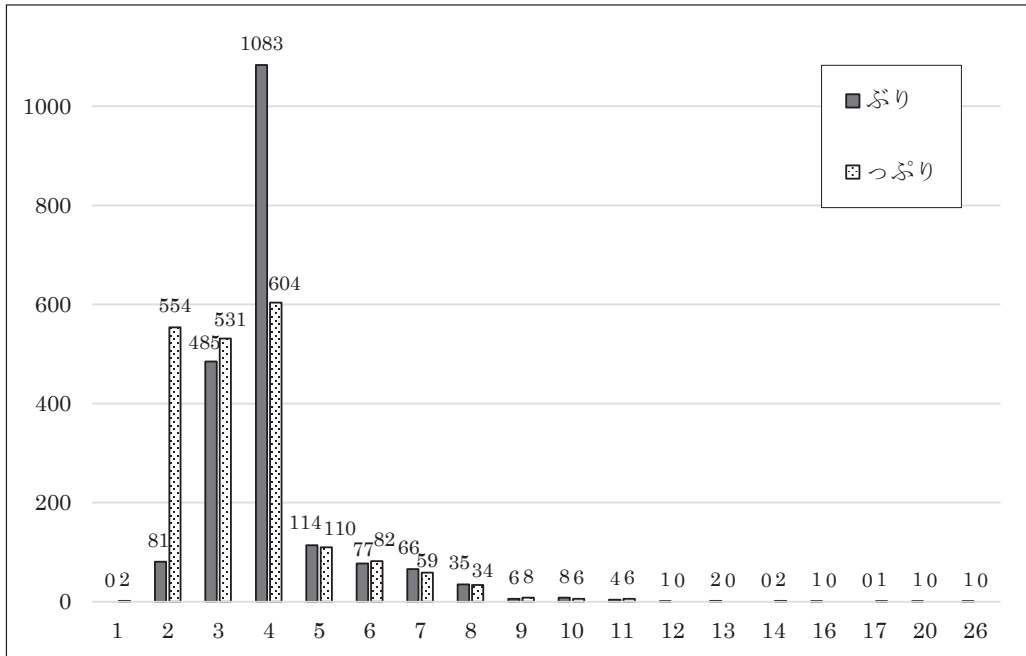


図4 モーラと「ぶり/っぶり」の分布

「ぶり/っぶり」の前部要素のモーラ数は1モーラから26モーラまで見られた。2モーラから8モーラまでで、全体の98%を占める。件数の少ない1モーラと9モーラ以上を除くと、「ぶり/っぶり」の分布に偏りが見られるのは2モーラと4モーラである。2モーラは、「っぶり」が選択されるものが多い(87.2%)。4モーラは「ぶり」が選択されるものが多い(64.2%)。



⑤ 頻度

前部要素の頻度は0から803,148までであった。頻度の幅が広いので、対数をとって結果を示す。前部要素のBCCWJにおける頻度と「ぶり」の件数、前部要素のBCCWJにおける頻度と「っぶり」の件数は、以下図5のヒストグラムの通りである。

なお、頻度0の件数が多く度数分布が観察しづらくなるために、以下のヒストグラムからは頻度0は省略している。対数としたあとの、頻度は0から13.59までであった。省略した頻度0の内訳は「ぶり」346件、「っぶり」342件の計688件である。

横軸が前部要素の頻度で、縦軸が件数である。「ぶり」と「っぶり」の頻度ごとの分布を比較するため、「ぶり」を正の方向に、「っぶり」を負の方向に示している。そのため「っぶり」の件数が負の値になっているが、「っぶり」も件数は正の値である。

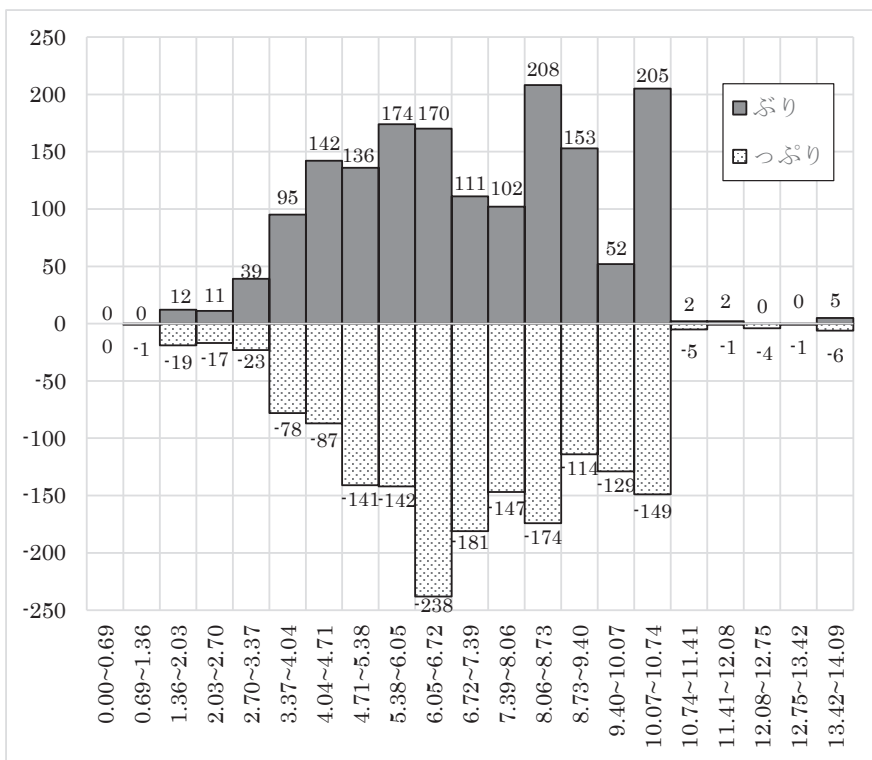


図5 頻度と「ぶり/っぶり」の分布

両者の分布を観察すると、「ぶり」は、8.06~8.73の階級の幅の度数が最も多く(208件)、「っぶり」は6.05~6.72の階級の幅の度数が最も多い(238件)。図5より、「ぶり」のほうが「っぶり」よりも、前部要素の頻度の高い方に多く集まっていることが観察できる。

## 3.2. 統計分析

ロジスティック回帰分析の結果を、以下の表 6 に示す。

表 6 ロジスティック回帰分析の結果

要因	要因レベル	推定値	標準誤差	Z 値	p 値	有意性
(切片)		2.0278	0.2497	8.1210	4.62e-16	***
品詞	名詞	基準レベル				
	形容詞	0.6267	1.4352	0.4370	0.6623	
	副詞	0.2650	0.2411	1.0990	0.2716	
	助動詞	1.4414	0.4692	3.0720	0.0021	**
	動詞	1.2494	0.1254	9.9660	<2e-16	***
	名詞-サ変可能	-0.9715	0.1012	-9.6010	<2e-16	***
	形容動詞	-0.2055	0.1546	-1.3300	0.1837	
	感動詞	11.3770	196.9677	0.0580	0.9539	
語種	混種語	基準レベル				
	和語	-0.3049	0.1711	-1.7820	0.0747	
	固有名詞	-0.1577	0.3802	-0.4150	0.6782	
	外来語	-0.1763	0.1901	-0.9270	0.3538	
	漢語	-0.2000	0.1624	-1.2310	0.2182	
音韻	その他	基準レベル				
	濁音	0.5399	0.1434	3.7660	0.0001	***
	撥音	-0.4578	0.1202	-3.8090	0.0001	***
モーラ		-1.1477	0.1258	-9.1200	<2e-16	***
頻度		-0.0562	0.0145	-3.8880	0.0001	***

\*\* $p < 0.01$ , \*\*\* $p < 0.001$

表 6 における用語について、切片は、一般化線形回帰モデルの定数項にあたる数値を示す。推定値は、一般化線形回帰モデルの傾きであり、変数が 1 変動したとき、どの程度結果が変動するか、を示す。本論文の調査の場合、推定値が正であれば、その変数は「っぶり (1)」を選択しやすくなり、推定値が負であれば、その変数は「っぶり (1)」を選択しにくくなる (つまり「ぶり (0)」を選択しやすくなる)ということを表す。標準誤差は、値が小さいほどその変数の信頼性が高く、値が大きいと信頼性が低いことを示す。Z 値は、回帰係数を標準誤差で割った値であり、p 値は、Z 値から計算された確率である。有意水準を 5% に設定しているため、 $p < 0.05$  である変数には有意性が認められる。説明変数について、名義尺度である品詞、語種、音韻に

については、項目の1つが基準レベルとなっている。品詞は、名詞を基準レベルとし、形容詞、副詞、助動詞、動詞、名詞-サ変可能、形容動詞、感動詞が、名詞に対する相対的な効果を示している。語種は、混種語を基準レベルとし、和語、固有名詞、外来語、漢語が、名詞に対する相対的な効果を示している。音韻は、その他を基準レベルとし、濁音、撥音がその他に対する相対的な効果を示している。

以下、①品詞、②語種、③音韻、④モーラ数、⑤頻度の各変数について、表4より読み取れるロジスティック回帰分析の結果を記述する。

#### ①品詞

「ぶり/っぶり」の選択に有意であったものは、助動詞、動詞、名詞-サ変可能の3つである。このうち、推定値が正である助動詞と動詞は、「っぶり」になりやすく、推定値が負である名詞-サ変可能は、「ぶり」になりやすい。

#### ②語種

語種はいずれも「ぶり/っぶり」の選択に有意な効果が認められなかった。したがって、語種が何かということは必ずしも「ぶり/っぶり」の選択に効果がない。

#### ③音韻

濁音で終わること、撥音で終わることの両方が「ぶり/っぶり」の選択に有意であった。推定値が正である濁音終わりは、「っぶり」になりやすく、推定値が負である撥音で終わるものは「ぶり」になりやすい。

#### ④モーラ数

「ぶり/っぶり」の選択に有意であった。推定値が負であるため、モーラ数が大きければ「ぶり」になりやすい、といえる。

#### ⑤頻度

「ぶり/っぶり」の選択に有意であった。推定値が負であるため、頻度が大きければ「ぶり」になりやすい、といえる。

### 4. 議論

本節では、第3節での結果を踏まえ、日本語の接尾辞「ぶり/っぶり」について、議論する。4.1節では「ぶり/っぶり」の選択に影響する要因について整理する。4.2節では、接辞「ぶり/っぶり」が複合語由来のものであることを述べる。4.3節では、「ぶり/っぶり」の使い分けと意味の違いの関係について考察する。4.4節で、第4節をまとめる。

#### 4.1. 「ぶり/っぶり」の選択に影響する要因

##### 4.1.1. 影響を及ぼす各要因

調査によって、前部要素の品詞と音韻とモーラ数と頻度の4つ要因が、「ぶり/っぶり」の選択に影響を与えることがわかった。

品詞について、前部要素の品詞がサ変動詞接続可能の名詞の場合は「ぶり」が使われやすいという杉村(2010)の結果が再現できた。これに加えて、前部要素の品詞が、動詞もしくは助動詞の場合には「っぶり」が使われやすいということも明らかになった。前部要素の品詞の種類が何であるかは「ぶり/っぶり」の選択に影響を及ぼす。

音韻について、前部要素が濁音で終われば、「っぶり」が選択されやすく、撥音で終われば「ぶり」が選択されやすいということがわかった。前部要素の音韻が「ぶり/っぶり」の選択に影響を及ぼす。この、濁音で終わる場合は濁らず、撥音で終わる場合は濁るということは、複合語形成の連濁の音韻規則に従っている。

モーラ数について、モーラ数が大きいほど「ぶり」が取られやすいということがわかった。「ぶり/っぶり」の前部要素のモーラ数は1モーラから26モーラまで見られたが、2モーラから8モーラが全体の98%を占める。それ以上のモーラ数の長いものは件数が1件程度と少なく、それらは「ぶり」が選ばれていたため、統計分析の結果はこれらの影響を受けている可能性がある。長い複合語や句の前部要素について、モーラ数を全体とするのではなく「ぶり/っぶり」の直前の形態素のモーラ数とするなどによって、一般的な一語あたりのモーラ数に対する調査の必要がある。観察から、2モーラは「っぶり」が選ばれやすく4モーラ「ぶり」が選ばれやすいことがわかった。ただし「本」の連濁のように「ぶり」もしくは「っぶり」が選ばれやすくなるモーラ数の境界を見つけることはできなかった。「ぶり」は2モーラで「っぶり」は3モーラであるため、合計モーラが特定のモーラやフットに集まるように選択する可能性も考えられたが、2モーラに「っぶり」がつきやすく(5モーラ)、4モーラに「ぶり」がつきやすい(6モーラ)という結果から、フットとの関係を見出すことは難しい。

頻度について、前部要素の頻度が高いほど「ぶり」が取られやすいということがわかった。「ぶり/っぶり」の前部要素のうち、BCCWJでの頻度が高い前部要素は、順に「言う(803,148)」「行く(220,816)」「人(156,890)」「考える(98,935)」「使う(68,889)」「入る(58,543)」「生活(42,165)」「書く(41,966)」である。このうち、「言い振り」「書き振り」については、日本国語大辞典にも見出し語として掲載されている。これらの頻度の高い語は「ぶり」とセットで語彙として記憶されており、語彙として定着した「〇〇ぶり」は「っぶり」と置き換えられづらいと考えられる。

##### 4.1.2. 相互関係

品詞とモーラと語種の「ぶり/っぶり」の選択には、相互関係が見られる。品詞とモーラについて、2モーラは動詞が多い(635件中375件)。そのため、2モーラが「っぶり」を取りやすく、動詞が「っぶり」を取りやすいことは共通している。品詞と語種について、和語は動詞が

多く(1,670件中840件)、漢語はサ変動詞接続可能名詞が多い(1,714件中734件)。そのため、動詞が「っぶり」を取りやすく和語に「っぶり」が多いことは共通している。また、サ変動詞接続可能名詞が「ぶり」を取りやすく漢語に「ぶり」が多いことも共通する。このように、品詞とモーラと語種は「ぶり/っぶり」の選択において、相互関係があることに留意が必要である。

## 4.2. 複合語の一部としての「ぶり/っぶり」

4.1.1節で述べたとおり、前部要素が濁音で終われば、「っぶり」が選択されやすく、撥音で終われば「ぶり」が選択されやすい。この音韻による「ぶり/っぶり」の選択は、前部要素が濁音で終わる場合は連濁が妨げられ、撥音で終わる場合は連濁が起りやすくなる、という複合語形成の音韻規則と一致している。接辞「ぶり」と複合語形成との関わりについて、杉岡(2005)の指摘がある。杉岡(2005)は「-さ」「-み」「-方」「-ぶり」といった名詞化接辞について分析した。このなかで、接辞「ぶり」が自立語「ぶり」をもとにした複合語由来である可能性を以下のように記述している。

「一ぶり」と明らかに関連している独立語は、姿や様子という意味をもつ「ぶり」である(「寝たぶりをする」「酔っ払いのぶりをする」)。「一ぶり」は、この自立語「ぶり」が接尾辞として用いられるようになったものと思われる。断定するためには歴史的な資料を確認する必要があるが、「一ぶり」は連濁(「一っぶり」は撥音化<sup>1</sup>)を示すことから、まず自立語として複合語を形成し(「枝ぶり」など)その複合語の主要部名詞「一ぶり」が接尾辞として再分析され定着したと考えられる。(杉岡 2005: 85)

杉岡(2005)は、接辞「ぶり」が自立語「ぶり」をもとにした複合語由来であると、自立語「ぶり」の意味と接尾辞「ぶり」の意味の類似性と「ぶり」が示す連濁という観点から主張した。本論文の調査で、接辞「ぶり/っぶり」の選択において、前部要素の最後が濁音の場合は、連濁が避けられて「っぶり」が選ばれやすく、前部要素の最後が撥音の場合は、連濁が起りやすく「ぶり」が選ばれやすい、という結果が得られた。この複合語形成と一致した接辞「ぶり/っぶり」の音韻による選択は、「ぶり/っぶり」がもともと複合語由来の接辞である、という杉岡の考えを支持するものである。

## 4.3. 「ぶり/っぶり」の意味の違いについて

4.3節では、「ぶり/っぶり」の意味の違いと使い分けの関係について議論する。これまで記述されてきた「ぶり/っぶり」の意味の違いは、「っぶり」に含まれる促音によって生じていると考える。そこでまず、4.2節で述べた「ぶり/っぶり」は複合語由来であるということを踏まえ、

<sup>1</sup> 杉岡は「っぶり」について、「撥音化」と記述しているが、これは「促音化」の誤りだろう。

4.3.1 節では「っぶり」は促音による複合による形態であることを示す。次に4.3.2 節では、「っぶり」の複合明示の促音が、促音の強調効果の影響を受けることで、「っぶり」が「ぶり」と比較して強調の意味をもつように見えているという分析を提案する。

#### 4.3.1. 「っぶり」の促音について

4.3.2 節で、「ぶり/っぶり」の意味の違いにおける「っぶり」のもつ促音の影響を考察することに先立ち、本節では、「っぶり」の促音は複合明示を表すものであるということ述べる。

接辞付加における濁音や促音について分析した高山 (1995) は、「ミギツカワ(右っ側)」「ウソソポイ(嘘っばい)」のように、接辞付加による形態素複合における促音は、連濁と共通して、形態素境界に多く現れるとした。そして、濁音と促音による複合を次のように説明している。まず、和語の語頭には原則として濁音が立たない。そのため、「○○ぶり」「○○がる」などの、付属語・接尾辞の濁頭形式は、後部形態素の最初の子音が濁音であることで、直前の形態素からひと続きである複合を明示している。また、促音が語頭に立つこともない。そのため、「○○っぶり」「○○っこい」などの、付属語・接尾辞の促音も、語頭にはこない促音が接尾辞の頭にくることで、直前の形態素からひと続きである複合を明示している。このように、付属語や接尾辞がもつ濁音と促音には、「複合明示」の機能が共通して存在していると説明した。

複合語境界における清音の濁音化と促音挿入について、肥爪 (2018) は、語中の清子音の強調という観点から、両者を説明した。清音の濁音化と促音挿入は、どちらも語構成を明示するために、内部境界を強調することに由来し、両者は完全に平行する関係にある現象だとしている。

高山 (1995) も肥爪 (2018) も、形態素境界の濁音と促音は、複合明示を担っているという点で一致している。以上を踏まえると、「っぶり」の促音は、複合を示すマーカーだといえる。

#### 4.3.2. 促音挿入による強調効果

これまで、「ぶり/っぶり」の違いについては、「語気を強めるときに『っぶり』となる」(日本国語大辞典)、「『一っぶり』は当該事態の外面的な様相の現れが『豪快だ』、『潔い』、『見事だ』ということを表す表現である」(杉村 2010) のように、意味分析されてきた。しかし、この「ぶり/っぶり」の意味の違いの分析は、「っぶり」に含まれる促音によるものであると考える。

促音挿入には強調効果があるとして、形容詞やオノマトペの領域で研究がなされてきた。(近藤 2021, 那須 2002, 金子 2016)。「あつい→あっつい」「ピカピカ→ピッカピカ」のように、形容詞の内部や、オノマトペの内部に促音が挿入されることによって、その語には強調の意味が付与される。「っぶり」には、促音が含まれる。そのため、この促音挿入による強調効果が「っぶり」においても生じており、意味分析にも影響を及ぼしていると考えられる。4.3.1 節で述べたとおり、「っぶり」の促音は複合明示の促音である。しかし、促音には強調効果が存在するため、促音をもつ「っぶり」が促音をもたない「ぶり」と比較して、強調の意味をもつように見えている。これによって、「っぶり」には、「ぶり」と比較して、より強調された意味があるように、記述されてきたと考えられる。

調査によって、品詞・音韻・モーラ・頻度という意味とは独立した要因が、「ぶり/っぶり」の選択に影響を与えるということがわかった。品詞や音韻などの条件によって選択された「っぶり」が、もともと強調の意味があるように、促音の影響を受けることによって、あとから分析されている可能性がある。「ぶり/っぶり」は、複合の種類の違いによるペアであり、それぞれに意味の違いがあるというわけではない。意味の違いがあるとされてきたのは、「っぶり」に含まれる促音の強調効果を受けたためである。つまり、語調を強める目的で「っぶり」が選択されているのではなく、「っぶり」が選択された「○○っぶり」という表現に語調が強まったように感じられているのである。

#### 4.4. 「ぶり/っぶり」選択のまとめ

4.1節で、前部要素の品詞、音韻、モーラ数、頻度の4つが「ぶり/っぶり」の選択に影響を与えることを述べた。4.2節では、接辞「ぶり/っぶり」が複合語由来のものであることを述べた。この2点を踏まえ、4.3節で、「ぶり」と「っぶり」それぞれに、特有の意味があるというわけではなく、これまで分析されてきた意味の違いは促音の強調効果によるものであることを述べた。これらを踏まえると、語調の強さや意味の違いという観点以外から、冒頭で挙げた例文(1)(2)について「ぶり/っぶり」の使い分けを説明できる。

(15) @ngsmai は～わかりますよー 😊❤️❤️❤️もうなんなんですかね、あの美しさ 🧑‍🎨女の私も嫉妬する笑笑なのにちょくちょく見せる猫っぶりドジっぶり、、作られてない天然ぶり、、罪です 🍷

(@rrrkpn6, 2022-02-09,

<https://twitter.com/rrrkpn6/status/1495017019678203908>, 2023-01-03 最終閲覧)

「ドジ」は音韻的に濁音で終わり、モーラ数は2モーラである。これらは「っぶり」が選択されやすい条件に合致する。「猫」はモーラ数が2モーラであり、「っぶり」が選択されやすい条件に合致する。「天然」は音韻的に撥音で終わり、モーラ数が4モーラである。これらは「ぶり」が取られやすい条件に合致する。

(16) しっかりしたレインポンチョ買ったってよかった。持ってったやつじゃ全然歯が立たない降りっぶりだった。そして膝下レインブーツの活躍ぶり 🍀 kiu の商品がザクザク増えていくので、ゴリホの建設に貢献してると思います。

(@chagu7, 2022-07-09

<https://twitter.com/chagu7/status/1545680593739911168>, 2023-01-03 最終閲覧)

「降る」は品詞が動詞であり、モーラ数は2モーラである。これらは「っぶり」が選択されやすい条件に合致する。「活躍」は品詞がサ変可能名詞であり、モーラ数は4モーラである。こ



れらは「ぶり」が選択されやすい条件に合致する。

このように、語調の強さと意味以外の条件から、「ぶり/っぶり」の使い分けを説明することができる。

#### 4.5. 波及効果について

現代日本語には、連濁形と促音挿入形の両方をもつ複合語がある。また、連濁形と促音挿入形は複合語の内部境界だけではなく、付属語境界や接辞境界などさまざまなレベルで見られる。本論文の調査によって、「ぶり/っぶり」の選択には、前部要素の品詞、音韻、モーラ数、頻度の4つが影響を与えていることが明らかになった。他の複合語や接辞境界における、連濁形と促音挿入形についても、「ぶり/っぶり」のような前部要素との関係によって、どちらが選ばれるかの説明ができる可能性を示唆する。

### 5. おわりに

本論文では、「ぶり/っぶり」の選択について、以下の二点を主張した。第一に、前部要素の品詞・音韻・モーラ数・頻度の4つの要因が「ぶり/っぶり」の選択に影響する。第二に、「ぶり」と「っぶり」それぞれに、いつも特有の意味があるというわけではない。これまで分析されてきた意味の違いは促音の強調効果によるものである。

本論文では、Twitter によるコーパス調査と統計分析を行うことによって、接尾辞「ぶり/っぶり」の選択の影響を及ぼす前部要素の要因を明らかにした。これまで指摘されてきた「ぶり/っぶり」の2つの形態の意味の違いは、「っぶり」がもつ促音による影響を受けていることが考えられることを主張した。「ぶり/っぶり」は、意味によって使い分けているのではなく、前部要素の諸条件によって「っぶり」がまず選択され、そのあとに「〇〇っぶり」と「〇〇ぶり」の比較から、意味の違いを見出されている可能性があることを指摘した。複合語や接辞境界が連濁によるか促音挿入によるかという選択についても、「ぶり/っぶり」のように前部要素の要因に影響を受けている可能性を示唆する。

本研究における課題は多く残った。「ぶり/っぶり」の選択について、超重音節が忌避されるために重音節と促音は共起しにくいことも考えられるというご指摘をいただいた。前部要素が撥音(CVN)で終わるものだけではなく長音(CVV)で終わるものについても調査し、重音節の連続忌避について考える必要があった。また、なぜ動詞とサ変接続可能名詞が「ぶり/っぶり」の選択に関わるか、特定のモーラと「ぶり/っぶり」の選択の関係はどのようなものか、といった選択に影響を及ぼした各条件の具体的な原因についても、さらなる研究の必要がある。

#### 参考文献

- 肥爪周二 (2018) 「上代語における文節境界の濁音化」『歴史言語学の射程』37-50 三省堂  
 杉村泰 (2010) 「コーパスを利用した接尾辞「-ぶり」, 「-っぶり」の意味分析」『ことばの科学』

- 窪菌晴夫 (1999) 『日本語の音声』 岩波書店
- 窪菌晴夫 (1995) 『語形成と音韻構造』 くろしお出版
- Ohno, Kazutoshi (2000) The lexical nature of rendaku in Japanese. In: Mineharu Nakayama and Charles J. Quinn, Jr. (eds.) Japanese Korean Linguistics 9: 151–164. Stanford: CSLI.
- 杉岡洋子 (2005) 「名詞化接辞の機能と意味」 『現代形態論の潮流』 75-94 くろしお出版
- 近藤森音 (2021) 「複合形容詞への強調促音挿入における音韻効果と形態効果」 『言語研究の楽しさと楽しみ:伊藤たかね先生退職記念論文集』 430-440 開拓社
- 那須昭夫 (2002) 『日本語オノマトペの語形成と韻律構造』 博士論文 筑波大学
- 金子理紗 (2016) 「促音挿入による強調について」 『言語文化共同研究プロジェクト』 2015 7-12.
- 金田一春彦 (2001) 「連濁の解」 『日本語音韻音調史の研究』 334-368 吉川弘文館
- Bybee, Joan (1985) Morphology: A study of the Relation between Meaning and Form. Amsterdam/Philadelphia: John Benjamins.
- 高山知明 (1995) 「促音による複合と卓立」 『国語学』 182 15-27
- 北原保雄他編 (2003) 「ぶり」 『日本国語大辞典』 第2版 小学館
- "ぶり【振】", 日本国語大辞典, JapanKnowledge, <https://japanknowledge-com.utokyo.idm.oclc.org>, (2023-01-03 最終閲覧)
- 現代日本語書き言葉均衡コーパス BCCWJ <https://chunagon.ninjal.ac.jp/bccwj-nt/search> (2023-01-03 最終閲覧)
- 『現代日本語書き言葉均衡コーパス』 語彙表 <https://clrd.ninjal.ac.jp/bccwj/freq-list.html> (2023-01-03 最終閲覧)

## Selection of Japanese Suffixes *huri* and *ppuri*

Akari Tada

tadaakari.3723@gmail.com

Keywords: *huri*, *ppuri*, suffix, *rendaku*, double consonant

### Abstract

The Japanese suffix *huri* has an allomorph *ppuri*. It has been analyzed that meaning determines the selection between *huri* and *ppuri*. The purpose of this paper is to find other factors that influence the selection between *huri* and *ppuri*. The research methods are a Twitter corpus survey and a logistic regression analysis. This paper argues the following two points. First, four factors of the front element, part-of-speech, phonology, mora, and frequency, affect the selection between *huri* and *ppuri*. Second, there is no difference between the meanings of *huri* and *ppuri*. This result suggests that whether compounds contain *rendaku* or double consonant is also determined by the same rules as *huri* and *ppuri*.

(ただ・あかり)